幸袋、二瀬兩炭礦に警戒の手擴げらる

八幡製鐵所大罷業事件

八幡から職工數名が入込んだ形跡

一度八幡製鐵所に大同盟罷業の勃發するや其餘波或は北九州一帶に傳はりはせぬかと杞憂されてゐたが事件勃發と同時に勞友會友愛會の會員職工等數名が逸早く八幡製鐵所の採炭礦山なる同縣嘉穗郡幸袋、及び二瀬兩炭礦方面へ入込んだ形跡があり何時是等の職工の煽動に依り大事勃發せんも圖られざる模樣があるといふので其筋は該方面へも警戒の手を擴げつゝある（八幡電話）

特殊勤務者のみ寂しく入場

反感を昂めつゝある職工

友愛會主催の演說會

八幡製鐵所職工人夫一萬六千人の中七日出入場したものは一萬百八名、内職五百三十五名、八日は特殊勤務者のみを入場せしめた國鐵職工千九百、人夫七百名に過ぎない但し九日よりは平素通り入場せしむべき筈である一方製鐵所及び八幡市中から附近へかけてほ警戒官憲の警戒の網が嚴重に張られてあるがそれに對する職工側の反感は非常なもので殊に友愛會支部主催の演說會が其筋の手に阻止せられつゝありと聞いた職工等は或種の非常手段に出づべき險惡なる形勢を示したので其筋は八日午後三時から友愛會支部事務所及び黑住教會の二箇所を限つて演說會開催を許可するに至つた演說會場では紳士が「今回の要求は單に勞友會のみの要求で無く製鐵所全職工が絕叫する最少限度の要求である」と製鐵所側はこれを

中川次長、竹下課長進退伺を提出す

事件落着を待つて自決

製鐵所の中川次長及び竹下工場課長は今回の事件の責任を負ひ事件落着を待つて自決すべく取敢ず白仁長官の手許へ進退伺ひを提出した（東京電話）

飛込んだ國粹會次長調停を拒む

兩日中に解決と稱して

國粹會の石野騎兵、伊藤藤松兩氏は八日午後四時八幡製鐵所に中川次長を訪ひ今回の罷業は兩者志就通を缺くに起因するを以て兩粹會が其中間に立ち圓滿に解決したき旨を申込んだ次長は之を拒絕し且「唯今（八日午後七時）接受した各工場主任の報告に依れば一兩日中に全部解決すべき見込である」と語つた但し事態は九日も尙作業不能なるべく觀測されてゐる（八幡電話）

平爐の火落ちず

職工側は反對

製鐵所の平爐二十七箇の内二箇

友愛會の調停をも拒絕

來得る丈の迹は講じた積だ

夫がこんな事になつたのは仕方がない要するに私の不德の致す處であらふ

記者は今回の惹部のから爲にする者なきに煽動されて今度のやうなに對し長官は語る

◆怠業をやるに至つたのである何とかこれを未前に防ぐ方法はなかつたかと言はるれば

友愛會の行り口である友愛會幹部はこの問題から一切手を退いた以上各自へ自由意志に任き氏は後の

自動車の活動（製鐵所、八幡署への連絡機）

何かて滯在

せぬ我々は必ずしも過激の手段を以て要求を容れしめようと云ふのではない併し長官の誠意な

なさの怪事實を惡意したので場外にも溢れる程の罷業は暗澹を極めた其筋ではこの形勢を見て反感の度を加めるのは不利と知り入口で穩かに入場者を退去せしめやうとして居た（八幡電話）

陸揚人足危く罷業

製鐵所職工の勸め

十日若松港で商船吉林丸が製鐵所用鑛石陸揚作業中製鐵所職工人夫の一部は彼等に向ひ同じ勞働者たる立場に同情し陸揚作業を中止せんことを勸說した爲め陸揚人足の罷休を見んとしたが警官隊駐付け嚴重監視の裡に漸く陸揚を終つた（若松電話）

▲製